

## 北海道の高校生におけるひきこもり親和性の検討

—性・学年別の該当率に着目して—

○ 北海道医療大学大学院看護福祉学研究所臨床福祉学博士後期課程 氏名 米田政葉 (008824)

志渡 晃一 (北海道医療大学・002478)

キーワード: ひきこもり親和性, 高校生, 該当率

### 1. 研究目的

近年、ひきこもりの長期化及び高齢化が社会問題として指摘され、早期発見・介入によるそれらの防止と共に、ひきこもり化の予防が必要であるとされている。

ひきこもり予防の視点から、ひきこもり親和群(以下、親和群)の存在が着目されている。親和群とは東京都(2008)の調査で提唱された概念であり、ひきこもり親和性(以下、親和性)を測定する尺度により同定される。東京都の調査を元に内閣府が行った調査(2010)では、国内の若者における親和群の該当率は4.0%(男性3.1%, 女性4.8%)であるとしている。さらに、親和群について「実際にはひきこもっていないにも関わらず、ひきこもる人の気持ちかわかるとか、自分でもひきこもりたいと思う人々」であり、ひきこもり予備軍的存在として指摘している。渡辺ら(2009)は、親和群に対するケアについても充実化し、ひきこもりに至る前段階での介入方法を探索する必要性を指摘としている。米田らが北海道の大学生を対象に行った研究(2017)によると、親和群の該当率は16.4%(男性16.0%, 女性16.8%)であり、内閣府の調査における15~24歳にあたる群の該当率よりも高いことから、高等教育機関に所属する者の親和性が高い可能性を指摘している。ひきこもり予防の観点からみると、より若い年代に着目し親和性について検討する必要があると考える。しかし、これまで大学生未満を対象とした研究は行われていない。そこで、本研究では北海道の高校生を対象に、親和性と性・学年の関連を検討する事を目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

北海道の高校生を対象に、親和性と性・学年の関連を検討する事を目的とした横断研究である。

北海道内の公立高校1校に所属する高校生951名を対象とし2016年8月に無記名自記式質問紙を用いた集合調査を行った。なお、対象高校は偏差値が平均よりやや高く、進学率も一定程度であり、札幌を代表する集団であると考えられる。有効回答数799名(84.0%)であった。対象の性別は男性321名、女性478名である。調査項目は1)基本属性4項目、2)ひきこもり親和性尺度4項目、他61項目の計69項目とした。

ひきこもり親和性尺度は4件法4項目から構成される尺度である。合計点数は4~16点に分布し、4~14点を一般群、15~16点を親和群と定義した。親和性を目的変数、性・学年を説明変数とし、Fisherの直接確率検定にて関連を検討した。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学科倫理委員会の承認を得て行った。

### 4. 研究結果

本研究の結果、親和群の該当率は全体で 13.0%、男性 12.1%、女性 13.6%であり、性別に有意な差は見られなかった。

親和性の該当率について学年別の検討を行った結果、1年生と比較し3年生で有意に該当率が低かった(図1)。

学年別に性別の関連を検討した結果、すべての学年で性別に有意な差はみられなかったが、女性の該当率が高い傾向がみられた(図2)。

性別に学年別の親和群の該当率を検討した結果、男女共に該当率に有意差はみられなかったものの、学年が上がると親和群の該当率が下がる傾向にあった(図2)。

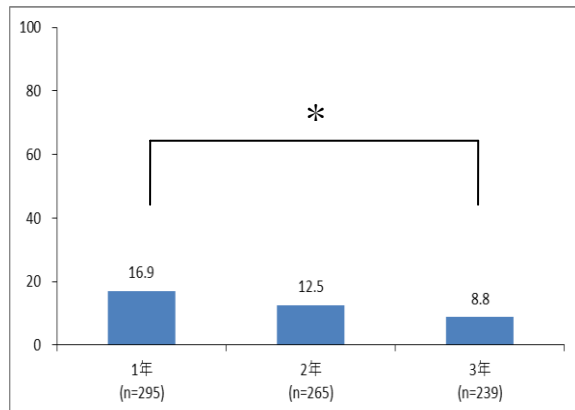


図1 学年と親和性の関連

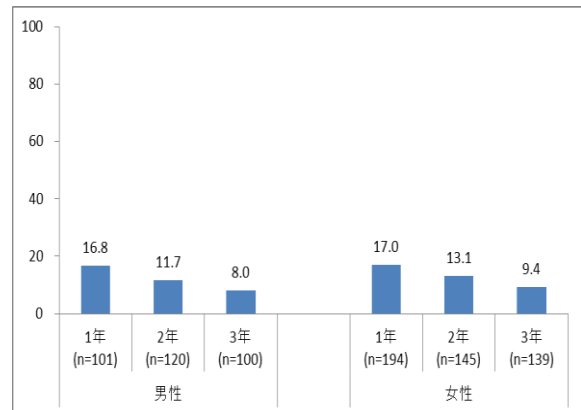


図2 性別の学年と親和性の関連

### 5. 考察

本研究の結果、親和群の該当率は 13.0%であった。これは、大学生を対象とした研究(米田, 2017)と同程度の該当率であった。性別に有意差がみられなかった。これは、米田ら(2015, 2016, 2017)の研究と一致していた。一方、東京都(2008)及び内閣府(2010)の調査では女性の該当率が有意に高いことが指摘されており、これと異なる結果であった。学年との関連について、全体では1年生と比較し3年生で該当率が有意に低かった。性別に学年との関連を検討した結果、有意な差はみられなかったが、男女共に学年が上がると親和群の該当率が下がる傾向にあった。これは非常に興味深い結果であり、今後、希望する進路別の該当率について検討する必要があると考える。

本研究の有効性は、北海道内の高校生を対象とし、親和性と性・学年の関連を検討した点、ある程度代表性のある集団を対象とした点である。今後、調査対象を複数の高校に拡大すること、希望する進路別の該当率について検討することが課題である。